

第14回 4つのたとえによる教え (4:21~34)

《アウトライン》

1. 明かりのたとえ (4:21-23)
2. 秤 (はかり) のたとえ (4:24-25)
3. 成長する種のたとえ (4:26-29)
4. からし種のたとえ (4:30-32)
5. まとめ (4:33-34)

- ### 《結論》
1. マタイ 13 章とマルコ 4 章の違い
 2. 神の国の市民として

《聖書研究メモ》

復習：「種を蒔く人のたとえ」のポイント

- ・ 神の国のメッセージは、全ての人に受け入れられるわけではない。
- ・ 神の国のメッセージを受け入れる人は少数である。

4:21-23 「明かり」

- ・ 手の平サイズの丸い土器にオリーブ油を入れ、芯を立てたランプが一般的だった。
- ・ 旧約では「ともしび」は神を表すため (2サム 22:29) か、神のみことばを表すため (詩 119:105) の比喩として使われている。

4:24-25 「秤 (はかり)」

- ・ 市場で穀物などを量り売りする際に使う入れ物
- ・ 古代ユダヤ教文献では、人が自分の行いに応じたさばきを神から受けることを表すのに「人は自分の秤によって量られる」という意味の表現が出て来る。

4:30-32 からし種のたとえ

- ・ 「からし種」：クロガラシのこと？
- ・ 「空の鳥」：旧約では、木に鳥が巣を作るというイメージが、強大な王国 (木) の下で様々な国 (鳥) が治められることを表している (エゼ 17:33; 31:6; ダニ 4:12)。

4つのたとえのポイント

明かりのたとえ：神の国のメッセージは、神の国に関する真理を明らかにする。

秤のたとえ：メッセージに応答する者は、真理を受け入れ、理解し、さらなる真理が与えられる。

成長する種のたとえ：神の国は完成に至るまで、すべて神ご自身によって整えられていく。

からし種のたとえ：神の国のメッセージを信じる者の数は、神ご自身によって増し加えられていく。

マタイ 13 章とマルコ 4 章の強調点 (結論1)

- ・ マタイ：イスラエルがイエスを拒否して以降、神の国のプログラムがどうなるか。
- ・ マルコ：神の国のメッセージの応答するのは少数だが、そのメッセージを宣べ伝えるべきである。